

男女共同参画推進委員会(JES We Can)便り 2024年度 JES We Can 支部活動の報告

◎：支部代表、○：報告者、(新)：新委員
支部代表以下は五十音順

[北海道支部 第24回北海道支部学術集会]

開催日：2024年10月6日(日)

会場：OMO7 by 星野リゾート(北海道旭川市)

会長：古橋 真人(札幌医科大学医学部 循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座)

企画1：JES We Can 北海道支部賞 受賞講演

2023年度受賞：高橋 由華 先生(釧路赤十字病院 内科 糖尿病センター)

2024年度受賞：宮本 麻唯子 先生(北海道大学医学院・医学研究院 免疫・代謝内科学教室)

企画2：北海道の女性 physician-scientist の挑戦と活躍

1. 初発時に診断に至らなかったアミオダロン誘発性甲状腺中毒症が、5年ぶりに再発し
ステロイド治療開始までに時間を要した1例
三次 有奈 先生(市立札幌病院 糖尿病内分泌内科)
2. レボチロキシンの消化管からの吸収障害が疑われ、注射製剤が有効であった甲状腺
機能低下症の1例
森田 彩 先生(国立病院機構 北海道医療センター 内分泌代謝・糖尿病内科)
3. 潰瘍性大腸炎に副腎悪性リンパ腫を併発し、副腎皮質機能低下へ至った2例
滝山 侑里 先生(旭川医科大学 内科学講座 内分泌・代謝・膠原病内科学分野)
4. Ecological Momentary Assessment を用いた副腎皮質機能低下症における唾液コルチゾ
ール値と心理状態の検討
宮 愛香 先生(北海道大学病院 糖尿病・内分泌内科)

座長：橋内 博哉(旭川医科大学病院 内科学講座 内分泌・代謝・膠原病内科学分野)

森川 俊太郎(北海道大学医学院 医学院 小児科学教室)

JES We Can 北海道支部では、北海道内における内分泌領域の学問および医療の進歩に貢献した女性医師を表彰する「JES We Can 北海道支部賞」を2018年に創設しました。

本学術集会の「企画1」では、2023年度受賞者の高橋由華先生(釧路赤十字病院)および2024年度受賞者の宮本麻唯子先生(北海道大学医学院)に受賞講演をしていただきました。お二人の先生方が、今後も北海道の女性医師にとって指導的な存在としてご活躍されることを期待しております。また、本学術集会では新たな試みとして、「企画2」において「北海道の女性 Physician-Scientist の挑戦と活躍」と題し、一般演題に応募された女性医師の中から4名の先生方にご登壇いただきました。会場では活発な議論が交わされ、専門性を高めたいと願うすべての参加者の心に響くセッションとなりました。最後に、本企画をプログラムに組み入れてくださった会長・古橋真人先生に、心より感謝申し上げます。

委員氏名：◎○(新)森川俊太郎、橋内博哉

[東北支部 第46回東北支部学術集会]

開催日：2024年4月6日(土)

会場：艮陵会館(仙台市青葉区広瀬町3-34)

会長：田中 哲洋 先生(東北大学大学院医学系研究科 腎・膠原病・内分泌内科学分野 教授)

企画：JES We Can 企画

講演タイトル：内分泌・代謝系の加齢変化とフレイルとの関連

演者：荒木 厚 先生(東京都健康長寿医療センター 糖尿病・代謝・内分泌内科)

フレイル予防センター長・健康長寿医療研修センター長)

座長：羽田 幸里香 先生(公立置賜総合病院 内科(代謝・内分泌))



今回の JES We Can 企画は、東京都健康長寿医療センターの荒木 厚先生をお招きして、内分泌・代謝系の加齢変化とフレイルとの関連について御講演頂きました。フレイルの進展に関する内分泌因子としては、グルココルチコイド、IGF-1、GH、アンドロゲン、DHEAS、テストステロン、ビタミンD等が重要であることが明らかになりつつあるものの、これらの内分泌因子に対する

介入により、フレイルが予防できるといった報告は、ほとんどないとのことでした。急激な高齢化の進行に伴い、寝たきりの方が増加し、医療費の増大に歯止めがかかる現状があります。フレイル予防の研究は、高齢者社会を迎える日本にとって、今後の重要な研究課題であると感じました。

会長である田中哲洋先生には、本企画に関して、多大なるサポートを賜りました。この場を借りて、深謝申し上げます。

委員氏名：◎○櫻井華奈子、木下敬子、高橋郁子、羽田幸里香、緑川早苗

【関東甲信越支部 第 25 回関東甲信越支部学術集会】

開催日：2024年9月28日(土) 11:30～13:10

会 場：大宮ソニックシティ(さいたま市)

会 長：田中 祐司 先生(防衛医科大学校病院 総合臨床部)

① JES We Can 企画「内分泌医のダイバーシティ」

演 者：藤田 直也 先生(防衛医科大学校病院 総合臨床部)

「家事育児しながら学術賞受賞を経験した陸上自衛隊医官」

児玉 ひとみ 先生(埼玉県立心会病院 副院長、乳腺内分泌外科)

「育児と外科医の両立の経験でマネージメントの力が磨かれた」

井下 尚子 先生(森山記念病院 病理診断科)

「内分泌学のダイバーシティ～基礎／女性の立場から」

座 長：鈴木 佐和子 先生(千葉大学大学院医学研究院 内分泌代謝・血液・老年内科学)

山田 貴穂 先生(新潟大学大学院医歯学総合研究科 血液・内分泌・代謝内科)

② JES We Can 賞受賞者(五十音順)

齊藤 あむな(慶應義塾大学医学部 小児科)

「思春期ダウントン症候群男児の性教育に困難を抱えた母子家庭に対する介入」

小堀 勤子(東京大学医学部附属病院 腎臓・内分泌内科)

「術前診断困難な画像所見を呈した壞死性下垂体炎の一例」

長谷川 奏穂(防衛医科大学校 腎臓内分泌内科)

「不定愁訴の精査から下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症が疑われた1例」

第 25 回関東甲信越支部学術集会 JES We Can 企画は、田中大会長とも議論の上、「内分泌とダイバーシティ」を key word に多様な分野、立場でご活躍の 3 名の先生方からご講演をいただけたことになりました。当日の講演開始前には、内分泌学会創設 100 周年に向けた活動について、関東甲信越支部代表の長谷川奏穂先生がいつもの熱い語りで会場を盛り上げてくださいました。そしてランチタイムを挟んでの 100 分の企画がスタート。藤田先生は、第二子が誕生されたばかりで育児に格闘する中、北海道からライブ中継でご講演くださいました。研究と臨床、家事と仕事をどちらも自然に肩肘張らずにこなされているお姿に励まされました。どちらか一方を選択しなくては、と悩んでいる者にとって目から鱗だったのではないかと思います。児玉先生は、外科医として、指導医として、管理職として、母として、そして登山家としてご講演くださいました。マルチタスクをこなされるスマートな生き方の背後に、1つ1つのライフイベントに誠実に対峙されてこられた実直なお姿を垣間見ることができました。冬山に挑む児玉先生の後についていきたい！と思ったのは私だけではなかったと思います。井下先生は、顕微鏡のレンズの先に広がる

形態学の世界に私たちを誘ってくださいました。井下先生持ち前の、全くぶれない透き通ったスタンスは、さまざまな葛藤が折り重なった結果であることを、会場の参加者みなが領けるお話だったと思います。これからも斬新な眼差しで内分泌病理の壮大な世界を、白いキャンバスに描いていって下さい。企画当日、関東甲信越支部事務局長の阿部清美先生をはじめとして、多くの先生方にご協力をいただきました。来年度からは、後述します当番世話人制度のもと、スイーツをお供にティータイムに会場を覗けるような企画も考えていくべきだと思います。

恒例になりました JES We Can 賞は、19 演題の中から選りすぐりのご発表をされた 3 名の先生方がご受賞されました。大変おめでとうございます！来年度からは、審査委員として大会長と次期大会長に加えて、各セッションの座長の先生方にも参画していただければと考えています。

さいごに、岩部美紀先生の教授ご榮転に伴い支部 JES We Can 代表をバトンタッチしてはや 1 年近くが経とうとしています。JES We Can 活動には初心者の私を、鈴木佐和子副代表、井下尚子副代表が全面的に支えてくださいました。そして、片井みゆき前代表のご尽力により、すべての県からメンバーが集うことになり、関東甲信越支部 JES We Can-B、C 委員 (B は Basic、C は Clinical)・協力委員は総勢 27 名になりました。今後は、活動したい、活動できる委員が積極的に参画できるよう、委員と協力委員との流動化を図ることになりました。また、各大会における当番世話人・副当番世話人の先生方が中心となって企画を立案・実行いただけたことになりました。関東甲信越支部 JES We Can のみなさまのご協力に心から感謝です。

委員氏名：◎○槙田紀子、阿部清美、荒田尚子、石田恵美、井下尚子、岩永みどり、大岩亜子、小澤直子、片井みゆき、方波見卓行、(新)河邊聰子、佐藤亜位、鈴木佐和子、鈴木眞理、田島敏弘、田辺晶代、中川朋子、中嶋康代、中村明枝、(新)蜂屋瑠見、深見真紀、福田いずみ、藤田 恵、堀川玲子、矢ヶ崎英晃、山口実菜、山田貴穂

[北陸支部 第 23 回北陸支部学術集会]

開催日：2024 年 11 月 9 日(土)

会長：笛岡 利安(富山大学 病態制御薬理学)

会場：富山大学 五福キャンパス黒田講堂

企画：日本内分泌学会北陸女性医師企画「臨床医のための内分泌症例セミナー」

講演タイトル：集学的治療により術後 27 ヶ月生存し得た副腎皮質癌の 1 剖検例

最優秀受賞者：池淵 文香(金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学)

表彰式進行：竹下 有美枝(金沢大学 内分泌・代謝内科学)

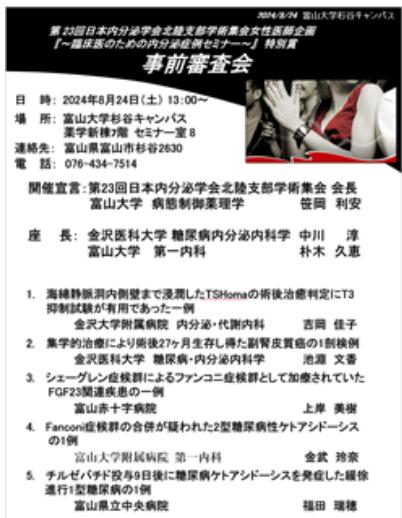
受賞講演座長：中川 淳(金沢医科大学 糖尿病・内分泌内科学)、

藤井 寿美枝(石川県立中央病院 糖尿病・内分泌内科)

2014 年から JES We Can 企画として「一般臨床医のための内分泌症例セミナー」を開催しています。これは、臨床に携わる女性医師が、過去 1 年間に発表した学会報告のうちの 1 題をもって応募、オープン参加の聴衆を審査員とした事前審査会にて最優秀賞を決定、受賞者には支部学術集会で表彰・副賞を贈呈するとともに、臨床的な啓発を意識した講演を行っていただくものです。本年度は、JES We Can 企画 10 年目の年でした。この 10 年間の歴代受賞者を振り返ってみると、初期研修医から内分泌専門医に至るまで様々な年代の方が受賞され、糖代謝・甲状腺疾患・副腎疾患・コホート研究など内容も多岐にわたります。

本年度受賞者の池淵文香先生には、稀な副腎皮質癌の 1 剖検症例を講演いただきました。副腎皮質癌の集約的治療により術後 27 ヶ月生存し得た症例であり、治療法・経過から多くのことを学ぶことができました。

本年度の会長 笛岡利安先生は、基礎の教室として北陸支部初の会長となります。JES We Can 企画はこれまで内科を中心に行われていましたが、本年度を機に内科のみならず、多くの先生の参加にも期待が寄せられます。



委員氏名：◎○竹下有美枝、中川 淳、藤井寿美枝、朴木久恵

[東海支部 第 24 回東海支部学術集会]

開催日：2024 年 9 月 21 日(土)

会 場：じゅうろくプラザ

会 長：山本 真由美(岐阜大学 保健管理センター・医学部附属病院糖尿病・代謝内科
岐阜大学大学院 連合創薬医療情報研究科)

企 画：「JES We Can Tokai 企画」

講演タイトル：「Update on the American Thyroid Association (ATA) 2024 nodule guidelines」

演 著者：Susan Mandel 先生(ペンシルベニア大学医学部)

座 長：山本 真由美(岐阜大学 保健管理センター)

講演タイトル：「内分泌診療から性差医療、そしてジェンダード・イノベーションへ」

演 著者：片井 みゆき 先生(国立大学法人 政策研究大学院大学 保健管理センター)

座 長：中嶋 祥子(市立四日市病院 糖尿病・内分泌内科)

JES We Can 委員でもある山本真由美先生が会長をつとめられた第 24 回東海支部学術集会は、山本会長のリーダーシップのもとに若手の育成や国際交流、ジェンダーバランスなど細やかに配慮されたプログラムとなり、盛会のうちに終わりました。

JES We Can 企画前半のセッションでは、元米国内分泌学会会長の Susan Mandel 先生により甲状腺腫瘍に関する米国甲状腺学会のガイドラインについて最新の話題と多面的な診断の重要性についてご講演いただきました。後半のセッションには片井みゆき先生をお招きし、豊富な臨床経験・膨大なデータベースをもとに開発された女性の受診・診断支援ナビゲーションアプリ「WaiSE」、またその開発の契機ともなる性差医療に関するご講演をいただきました。

大変勉強になるとともに、お二人ともそれぞれ第一線で活躍されていることから、その前向きでエネルギー溢れる姿も参加会員にとって大きな刺激となつたと思います。ご講演後には闊達な討論となり、セッション後のアンケートでは皆様より満足とのお声をいただくことができました。

最後になりましたが、本企画開催につき多大なるサポートと実行力を発揮いただきました山本真由美先生に深謝申し上げます。



第34回臨床内分泌代謝 Update

開催日：2024年11月30日(土)

会 場：名古屋国際会議場

会 長：鈴木 敦詞(藤田医科大学医学部 内分泌・代謝・糖尿病内科学)

企 画：JES We Can企画：「臨床研究の技法～PC持参で学ぼう！研究設計と生成AIを味方にする入門編～」

講演タイトル：「臨床研究における2群の比較について考える」

演 者：鍬塚 八千代 先生(名古屋大学医学部附属病院 先端医療開発部 データセンター)

講演タイトル：「Chat GPTを用いた英語医学論文の書き方」

演 者：押味 貴之 先生(国際医療福祉大学医学部 医学教育統括センター)

座 長：赤羽 貴美子(公立陶生病院 内分泌・代謝内科)

杉山 摩利子(名古屋大学医学部附属病院 糖尿病・内分泌内科)

第34回臨床内分泌代謝 Update は、大会長 鈴木敦詞先生のもと「伝える力で未来を拓く」をテーマとして開催されました。JES We Can Tokai では“伝える力”から論文を想起し、臨床医や若手の先生にとって研究や論文執筆に対するハードルが下がることを願ってセッションを企画いたしました。

前半では鍬塚八千代先生をお招きして日常臨床での疑問点を研究の形へデザインする方法や臨床研究支援の仕事、データセンターでの研究活動についてご講演いただきました。後半は押味貴之先生をお招きし、英語医学論文の執筆に Chat GPT など生成系 AI をツールとして利用する際の具体的な方法と注意点、役立つ prompts を紹介いただきました。

共に、論文に接するすべての医療者に役立つ内容としてご好評をいただきました。

最後に、本企画をプログラムに組み入れてくださり、ご高配をいただきました会長の鈴木敦詞先生、関係各位に心より御礼申し上げます。

本年度も幅広い教育の機会を得たことに一同感謝し、次回の企画へと反映してまいりたいと考えております。

委員氏名：◎山下美保、赤羽貴美子、小杉理英子、(新)酒井麻有、杉山摩利子、高木潤子、
○中嶋祥子、(新)藤澤泰子、山本眞由美、脇 昌子

[近畿支部 第25回近畿支部学術集会]

開催日：2024年11月9日(土)

会 場：烏丸コンベンションホール

会 長：田上 哲也 先生(国立病院機構京都医療センター 内分泌・代謝内科/臨床研究センター)

企 画：JES We Can企画(男女共同参画推進企画)

講演タイトル：「エピゲノムの視点に基づく腎臓内分泌代謝疾患の理解を目指して」

演 者：林 香 教授(慶應義塾大学医学部 内科学教室 腎臓内分泌代謝内科)

座 長：浅原 哲子(国立病院機構 京都医療センター 内分泌代謝高血圧研究部)

中島 華子(京都府立医科大学大学院医学研究科 内分泌・代謝内科学)

2024年度の近畿支部学術集会は、京都市の中心部にある烏丸コンベンションホールで開催されました。今回のJES We Can企画講演は、2023年に慶應義塾大学医学部 内科学教室 腎臓内分泌代謝内科の教授にご就任され、幅広くご活躍されている林 香教授にお願い致しました。生活習慣病の治療や合併症発症予防に関するエピゲノム変化、そして、メタボリックメモリーの存在に着目された、これまでの研究成果である高血圧症および慢性腎臓病(CKD)の時間的進展の分子機構に関する解析内容についてわかりやすくご説明いただきました。腎ポドサイトや近位尿細管上皮細胞、末梢血におけるDNA損傷が腎臓だけではなく心臓、肺、肝臓、脂肪組織など様々な臓器に影響を与えることが分かっており、腎DNA損傷を起点としたエピゲノム変化に注目して解析することにより、さらなる腎臓内分泌代謝疾患の新しい理解、そして、将来的な臓器連関をターゲットとした新しい治療戦略の開発が期待される、大変興味深い内容がありました。

本年度より、若手医師の活躍をより一層推進するため、近畿支部の若手優秀演題賞候補者の中からJES We Can賞を1名選出し、表彰する運びとなりました。本年度の受賞者として、箕面市立病院 小児科 石井裕代先生の「中枢性思春期早発症(CPP)を合併した先端異骨症の1例」が選出されました。

また、同日開催された JES We Can 近畿支部会議では、昨年度と引き続き完全対面で開催できました。近畿支部では新規メンバーとして、加藤さやか先生(京都医療センター 臨床研究センター 研究員、京都第二赤十字病院)、橋本有紀子先生(京都医療センター 小児科)、紙谷史夏先生(奈良県立医科大学)の 3 名に新たにご参画いただきました。浅原先生が JES We Can 委員長にご就任されましたので、2025 年度より近畿支部代表委員は道上先生に引き継がれる予定です。日本内分泌学会の創設 100 周年記念に向けて、JWC 会員からのエッセイの投稿、学会員全体へのアンケートも予定しており鋭意準備を進めていることを共有いただきました。

ご講演いただきました林 香先生、様々なご高配を賜りました学会長の田上哲也先生、関係各位に心より御礼申し上げます。



林 香 教授(前列中央)との集合写真

委員氏名 : ◎浅原哲子、位田 忍、○井上真由美、(新)加藤さやか、加藤純子、(新)紙谷史夏、新谷光世、高橋路子、○中島華子、(新)橋本有紀子、藤本美香、増山律子、三浦晶子、道上敏美、三好智子
※日本内分泌学会近畿支部支部長からの推薦・承認により、新たに大橋夏子先生(滋賀医科大学)に加わって頂いております。

[中国支部 第 25 回中国支部学術集会]

開催日 : 2024 年 9 月 7 日(土)

会 場 : 鳥取県米子市 米子市文化ホール

会 長 : 難波 範行(鳥取大学医学部 周産期・小児医学 教授)

企画名 : JES We Can シンポジウム「ライフサイクルと骨代謝」

座 長 : 鞍嶋 有紀(島根大学医学部 小児科)、三好 智子(京都大学医学研究科 医学教育・国際化推進センター)

講演タイトル・演者 :

「内科の立場から」 山内 美香(栄宏会小野病院 骨代謝疾患研究所)

「婦人科の立場から」 折出 亜希(島根大学医学部 産科婦人科)

「小児科の立場から」 藤本 正伸(鳥取大学医学部 周産期・小児医学)

第 25 回日本内分泌学会中国支部学術集会にて上記企画を行った。骨組織は胎内で形成、そして出生後は成長を遂げ、骨格形成のみならず、内分泌器官としての機能を持ちながら、女性は周産期には児への間接的な供給組織にも、そして、老年期にはその後の QoL に大きくかかわるような組織となる。内科の立場からとして、山内美香先生より、老年期の骨粗しょう症の実際的な治療管理をはじめ、病態の詳細を、産婦人科の立場から、折出亜希先生より、女性の思春期から老年期の骨代謝について、近年話題となっている low energy availability について、小児科の立場から、藤本正伸先生より胎児期から小児期への骨形成、骨吸収、IGF1 シグナルについての詳細をご講演いただいた。今回のシンポジウムでは一生涯ライフサイクルにおける骨代謝について系統学的に学べるまたとない機会となり、大変面白いシンポジウムとなり、参加者も多く、質疑応答も活発に行われた。

委員氏名 : ◎○鞍嶋有紀、折出亜希 (三好智子 京都大学へ異動)

[四国支部 第 24 回四国支部学術集会]

開催日 : 2024 年 9 月 7 日(土)

会 場 : 愛媛大学医学部キャンパス

会 長 : 古川 慎哉 先生(愛媛大学 総合健康センター)

企 画 : JES We Can 四国支部企画

講演タイトル : 多角的アプローチ・異分野融合型研究による内分泌代謝学の魅力

演 著者：岩部 美紀 先生(香川大学医学部 生化学講座)

座 長：井町 仁美(香川大学医学部 内分泌代謝・先端医療・臨床検査医学講座)

2024年4月より、JES We Can 関東支部代表であった岩部美紀先生が四国支部に来られたこともあり、JES We Can 四国支部企画のご講演を賜りました。先生がご研究されているアディポネクチン、アディポネクチン受容体、新薬につながるアディポネクチン受容体アゴニストについて、基礎から臨床へとつながる内容を紹介いただき、期待通り大変興味深いものでした。また、先生には、これまでのJES We Can の活動について紹介いただきました。我々の具体的な活動に強い関心を示してくださる方もおり、継続的な広報の必要性を改めて認識いたしました。

さらに、岩部美紀先生には、これまで不在であった四国支部 JES We Can-B(女性研究者応援小委員会)の委員にご就任いただきました。四国支部 JES We Can-C(女性医師応援小委員会)には高知大学の岡崎瑞穂先生と愛媛医療センターの加藤ひとみ先生が加わり、一気にマンパワーが増強されました。加えて、日本内分泌学会創設 100 周年記念事業におけるダイバーシティと JES We Can サポーターとして、四国支部からは愛媛大学の金本麻友美先生と松山市民病院の仙波英徳先生にご協力いただいております。今後のJES We Can 四国支部活動にこれらのご支援を十分に活かしていきたいと考えております。

最後になりましたが、JES We Can 活動を支援してくださる、学会長の古川慎哉先生、支部長の松浦文三先生並びに四国支部の先生方および関係各位に深く感謝申し上げます。我々も一層努力してまいる所存ですので、今後とも JES We Can 活動へのご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

委員氏名：◎○井町仁美、(新)岩部美紀、(新)岡崎瑞穂、(新)加藤ひとみ、吉田守美子

[九州支部 第24回九州支部学術集会]

開催日：2024年9月7日(土)

会 場：産業医科大学ラマツィーニホール

会 長：岡田 洋右(産業医科大学病院 臨床研究推進センター長)

企 画：JES We Can 九州支部賞授与・受賞講演

1. Clinical investigation of a unique type of hypothalamic adrenal insufficiency
竹下 佳織(福岡大学筑紫病院 内分泌・糖尿病内科)
2. Glycemic variability is associated with sural nerve conduction velocity in outpatients with type 2 diabetes: Usefulness of a new point - of - care device for nerve conduction studies
森田 真智子(大分大学医学部 内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学講座)
3. TERT Promoter Mutations Increase Tumor Aggressiveness by Altering TERT mRNA Splicing in Papillary Thyroid Carcinoma
酒匂 あやか(地方独立行政法人 長崎市立病院機構 長崎みなとメディカルセンター)

九州支部ではJES We Can企画として2016年より優秀論文に対しJES We Can九州支部賞と賞金の授与、受賞講演を行っています。9年ほどこの企画を継続しており、年々、応募論文も増加傾向です。

九州支部では久留米大学の協力を得て以下の点を工夫いたしました。

① 地方会総会でJES We Canの活動報告を行う

男女共同参画推進委員会 運用規定で役員会などに出席すると記載されていますが、九州支部では総会で報告する時間を設けて、伝達事項や活動報告を行うこととしました。

② 地方会の際、JES We Can 九州支部の会議を行う

九州支部事務局(久留米大学 蘆田健二先生)にも出席していただき、情報共有を図る

③ 委員の任期や選出方法などを明文化し、九州支部独自の内規を制定

支部事務局にも協力していただき、文書で委員募集も行うこととしました。

上記を工夫することにより、委員交替後の業務移行を円滑にする事、また九州支部全体に活動状況を共有、認識を促す事、委員選出の際、公平性と積極性を担保できる事を図っています。

現、支部局の久留米大学の先生方も JES We Can の活動に非常に協力的であり、様々なアドバイスを頂いてサポートして下さっています。

委員氏名：◎○三宅育代、馬越真希、佐藤 薫、柴田洋孝、伊達 紫、(新)永田さやか、

花田礼子、松田やよい、的場ゆか、山本幸代